

IHE 今後の展開

— IHEの意義やVISION —

日本IHE協会 代表理事
安藤 裕

もくじ

- 日本IHE協会の生い立ち
 - ユーザーとベンダーからなる団体
- 日本IHE協会のやるべき事:
 - コネクタソン(プロジェクトソン)
 - コネクタソンシール
 - 認定技術者試験の推進
 - ベンダーロックインの排除
 - 相互運用性の向上
- 以上のテーマと主要戦略との関係

IHEの歴史

- 1999年、アメリカでRSNA(北米放射線学会)とHIMSS(病院情報管理システム学会)がスポンサーとなり、設立。
- その後各地に拡大
 - 北米 (1999年)
 - ヨーロッパ (2000年)
 - **IHE - Japan 設立(2001年)**
 - アジア・オセアニア(2002年)



IHE-J の発足 (2001.7)

営利団体
ではありません。

- 学会、行政、工業会など各団体の連携
- ユーザ側、ベンダ側からなるオープンな組織

- 医学放射線学会 (JRS)
- 放射線技術学会 (JSRT)
- 医療情報学会 (JAMI)

- 医療情報システム
開発センター (MEDIS-DC)

- 日本画像医療システム工業会 (JIRA)
- 保健医療福祉情報システム工業会
(JAHIS)

後援: **経済産業省、厚生労働省**
日本核医学会, 放射線腫瘍学会,
消化器内視鏡学会、日本臨床細
胞学会、日本眼科学会 など

IHE協会の設立

- アメリカでIHEが設立され、その目的に賛同して、日本のユーザとベンダの有志が設立を計画。
- 2001年7月 IHE-Japan 法人格のない団体
- 2007年3月9日 有限責任中間法人『日本IHE協会』、その後2009年5月に一般社団法人となる。
- 目的は、「いつでもどこでも必要なときに健康情報にシームレスかつ安全にアクセスできるようにし、医療に貢献する」こと。

日本IHE協会が委託した事業

- 経済産業省関連
- **2001年** 医療情報利用促進調査研究開発事業「IHEの調査および日本版IHEの研究開発」
- **2002年** 情報経済基盤整備(保健医療福祉分野の標準化に向けたシステム設計・実証研究)における「IHE調査研究」
- **2003年** 医療情報プロセスの統合化(日本版IHE)のあり方に関する調査研究事業
- **2005～2007年** 医療情報システムにおける相互運用性の実証事業「医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクト(システムの相互接続性)」(経済産業省委託 JAHIS経由)

日本IHE協会が委託した事業2

- **2007-2012年** 医療情報システムの相互運用性確保のための対向試験ツール開発事業（厚生労働省委託）
- **2013-2014年** 医療情報システムの相互運用性確保のための普及啓発事業（厚生労働省委託）
- **2015年** 医療情報連携ネットワークの検証体制に関する検討請負事業（厚生労働省委託 JAHIS経由）
- **2016年** 医療情報連携ネットワークにおける標準規格準拠性の検証機関の実現に向けた調査研究業務（厚生労働省委託 JAHIS経由）
- **2017-2019年** 戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動（経済産業省委託 (株)三菱総合研究所経由）JOIA規格のISO化

参加団体

● 会員

- S会員： 5 団体(企業)
- A会員： 67 団体(企業・学会)
- B会員： 21 名(個人)
- C会員： 18 名(個人)

ユーザーとベンダーからなる団体としての特性を活かして、ニュートラルな立場で、医療に貢献。

2023年7月1日現在

● 学会等：

日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本循環器学会、日本病理学会、日本医療情報学会、日本放射線腫瘍学会、日本眼科学会、日本歯科放射線学会 など

● 後援：

日本核医学会、消化器内視鏡学会、日本臨床細胞学会、日本麻酔学会

IHE-International

IHE International
board

※誰でも参加できる
オープンな組織。
2015から年会費を徴収。

Regional IHE

地域や国の活動

- ・ヨーロッパ: フランス、ドイツ、イタリア、...
- ・北米: アメリカ、カナダ、...
- ・アジア・オセアニア: 日本、韓国、台湾、中国、...

IHE Domain

各分野の活動

放射線、臨床検査、循環器、病理・臨床細胞、内視鏡、眼科、放射線治療、.....

日本IHE協会の重要項目

- コネクタソン(プロジェクトソン)
- コネクタソンシール
- 認定技術者試験の推進
- ベンダーロックインの排除
- 相互運用性の向上



最適な医療の実現に貢献

医療情報システムのマルチベンダー対応し、接続のための時間や手間を0.55~0.37倍に短縮。

コネクタソン・プロジェクトソン

接続テスト（コネクタソン）

● connect + marathon = Connectathon



IHE-J コネクタソン 2008.10.27-31

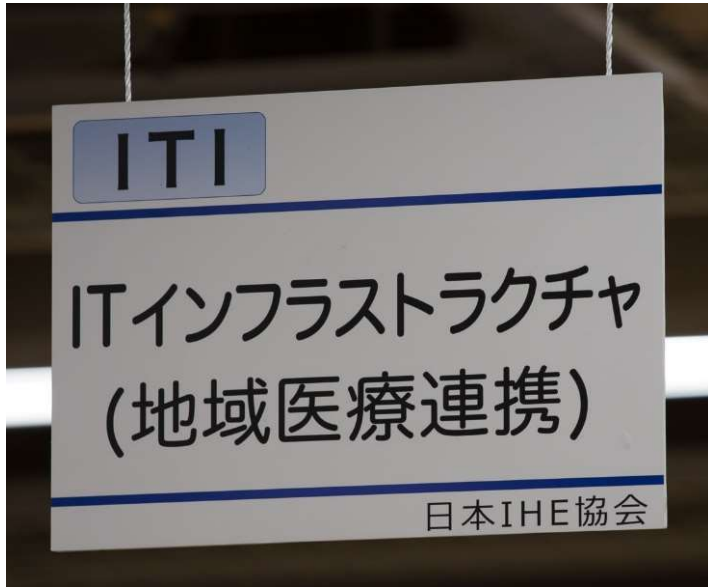


接続テスト

Connect + Marathon

メーカーが実装したシステムを
持ち寄り、テストする

IHE-J Connectathon 2017.9.24-29



IHE-J Connectathon 2017.9.24-29



IHE-J Connectathon 2019.10.7-11



IHE Integrating the Healthcare Enterprise
JAPAN

IHE-J 2019 コネクタソン

医療情報連携の仕組みを変えるIHE

2019年10月7日(月)～11日(金)
会場：1階 横浜産貿ホール マリネリア

※ 一般の方のご入場はできません。



IHE-J Connectathon 2019.10.7-11



コネクタソン見学会も
同時開催。



特定の業務に特化した接続テスト プロジェクトソン(Projectathon)

プロジェクトソン vs コネクタソン

項目	コネクタソン	プロジェクトソン
準拠する規格など	IHE統合プロファイル (業務シナリオ)	特定の業務*(プロジェクト)に特化して、IHEプロファイルを使用する
対象	すべてのベンダ	プロジェクトに参加するベンダ
実施形態	日本IHE協会が年に一度実施	プロジェクト実施者がシステム構築時に行う
結果の公開	公開	原則非公開

*特定の業務の【例】: A病院の部門システム、国家プロジェクトの画像共有システムなど

IHEに準拠している製品かどうか、ひと目でわかる。
コネクタソンシール

IHE準拠

- IHEのテクニカルフレームワークに則り、アクタ、トランザクションなどが統合プロフィールに合致している製品については、メーカーは「**インテグレーションステートメント (IS)**」の中にその適合性を記載することになっています。ISに記載された統合プロフィールの範囲において、その製品がIHEに“**準拠**”していることが**明確に宣言**されています。
- IHE協会は**コネクタソンに合格した証**としてシール(マーク)を商材に添付できる制度を、2020年度合格システムを対象として開始しました。以後、その年度合格システムを対象として実施しています。

コネクタソン® シール

- コネクタソンに合格したベンダーは、自社の製品に**IHE準拠の証**として、シールを貼ることができます。



コネクタソンシール

● ユーザ

- IHEに準拠している製品かどうか簡単にわかることをアピール。
- 購入時に、シールが貼ってある製品を優先的に購入するように動機付けされる。

● ベンダ

- コネクタソン参加のモチベーションが上がる。
- 自社の製品の付加価値が上がる。

IHEの普及を目指すため、IHEのよき理解者である人材の育成を図る。

認定技術者試験

認定技術者試験の推進




さらなるIHEの普及を目指し、2019年よりIHE認定技術者制度発足。その目的は、(1)IHEのよき理解者を増やし、(2)医療機関でのシステムの構築と運用を支援できる人材の育成を図る。

既存ベンダーが他社の参入を妨害することを防
止する。

ベンダーロックインの排除

ベンダーロックインの排除

- ベンダーロックインとは、情報システムなどの中核部分に特定の企業の製品やサービスなどを組み込んだ構成にすることで、他社製品への切り替えが困難になることです。ベンダーロックインには、コーポレートロックインとテクノロジーロックインの2種類があります。
 - **コーポレートロックイン**とは、提携しているベンダーが自社の業務やシステム内部の細かい部分までを深く理解しているため、他社への移行が難しい状態です。
 - **テクノロジーロックイン**とは、ベンダーの技術に依存している状態です。ベンダー独自の開発手法による製品やサービスのため、他製品やサービスへの移行が困難となる事象です。  **IHEで解決できる。**

ロックインのメリット

- ベンダーロックインにはメリットもあります。
 - 機器・サービスの使い方等のアドバイスをもらえる
 - 社内の業務や課題をベンダーに理解してもらいやすく、解決に必要なIT機器・システムの提案を得られる
 - ベンダーとより深い信頼関係が築け、将来の機器更新計画などの相談ができる
- ベンダーロックイン自体は悪いことではないと認識しつつ、企業活動において**悪影響が及ぶ境界線を定めておくことが大切です**。そのためには、常に客観的な視点で企業の状態を把握することが必要です。

公正取引委員会がベンダー ロックインを指摘

- 2022-02-08 公正取引委員会がベンダーロックインを指摘したのは、「官公庁における情報システム調達に関する実態調査」の報告書。
- この報告書では、官公庁の情報システム調達において、特定のベンダーから抜け出せない状況が多く見られることや、そのような状況が競争を阻害し、システムの品質やコストに悪影響を及ぼす可能性があることが指摘されています。また、ベンダーロックインを回避するためには、情報システムの疎結合化やオープン化、官公庁の組織・人員体制の整備などが必要であるという競争政策上の検討事項も示されています。

ベンダーロックインが独占禁止法に違反するか？

- 独占禁止法に抵触する可能性のある行為：
 - 既存ベンダーが他社の参入を妨害するために、発注者や他のベンダーに対して**不当な圧力や嫌がらせを行う**こと
 - 既存ベンダーが他社の参入を妨害するために、発注者や他のベンダーに対して**虚偽や誇大な主張を行う**こと
 - 既存ベンダーが他社の参入を妨害するために、発注者や他のベンダーに対して**不当な条件や制約を課す**こと
 - 既存ベンダーが他社の参入を妨害するために、発注者や他のベンダーに対して**不当な差別や不利益を与える**こと
 - 既存ベンダーが他社の参入を妨害するために、発注者や他のベンダーと**不当な取引や共謀を行う**こと
- これらの行為は、独占禁止法第3条(私的独占の禁止)、第8条(不公正な取引方法の禁止)、第19条(不当な取引制限行為の禁止)などに該当する可能性があります。もし、これらの行為が発覚した場合は、公正取引委員会は調査や摘発を行うことができます。

ベンダーロックインの弊害を 予防するには

- 特定のソリューション固有の技術や概念を極力使用しない。汎用性の高い技術や標準規格(IHE)に基づいた製品やサービスを選ぶことで、他社への移行が容易になります。
- 著作権が自社に帰属するよう契約書を交わす。システムの著作権がベンダーに帰属している場合、他社への移行が困難になります。システムの著作権を自社に持つことで、自由に改修や移行ができるようになります。
- 仕様書はベンダー側に必ず制作してもらおう。仕様書がない場合、システムの内部構造や動作原理が不明確になり、他社への移行が難しくなります。仕様書を作成してもらうことで、システムの仕組みを把握しやすくなります。
- マルチベンダーでシステムを構築する。一つのシステムを複数のベンダーに分散して発注することで、ベンダーへの依存度を低くすることができます。また、競争原理によってコストや品質も向上する可能性があります。
- 業務を標準化する(IHEの業務シナリオ)。業務が独自・特殊である場合、既存のパッケージシステムでは対応できず、スクラッチ開発をせざるを得ない場合があります。業務を標準化することで、汎用的なシステムで対応できるようになります。

最適な医療の実現に貢献する。
相互運用性の向上

相互運用性の向上

- 相互運用性の重要性を十分に理解し、システムの導入・更新には、IHE準拠のシステムを優先して導入する。
- IHE準拠のシステムにより医療情報システムの相互運用性・共通利用性を強化し、情報システムの利便性や作業効率が向上し、最終的には、患者などの医療水準の向上や健康の増進に役立つ。

日本IHE協会は

- IHE International Strategic Plan 2022に沿って、国内の活動を行います。
- IHE Visionや主要戦略に合致した事業を行い、『いつでもどこでも必要なときに健康情報にシームレスかつ安全にアクセスできる』ようにします。

IHE主要戦略(要旨)

- 第1の柱: IHE パートナーとの関係(ケア提供者との連携によるIHEプロファイルなどの開発)を密に
- 第2の柱: Connectathon と Projectathonを実施
- 第3の柱: エビデンスに基づいたケアの拡大における IHE のリーダーシップ
- 第4の柱: 価値に基づく医療サービスの運用における IHE のリーダーシップ
- 第5の柱: 持続可能性を確保するためのビジネスモデル維持(コネクタソン・プロジェクトソンの持続的拡大)

まとめ

- 日本IHE協会は、コネクタソン(プロジェクトソン)、コネクタソンシール、認定技術者試験の推進、ベンダーロックインの排除などを通じて、医療情報システムの相互運用性の向上させる。
- IHE活動の意義をよく理解して、組織のサステナビリティを強化することが大切。
- IHEは最終的には、最適な患者ケアや健康増進に貢献します。



皆様の立場でIHE活動へのご参加・ご協力をお願いします。

**ご質問は、
日本IHE協会ホームページまで。**